

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

再び東北新幹線「連結外れ」 鉄道軽視と技術継承の崩壊 融合化撤回・抜本的な安全対策を



2025/3/6 走行中の東北新幹線が再び分離した

今年3月6日、東北新幹線の上野〜大宮駅を走行中の「はやぶさ」と「こまち」の連結器が外れるという重大事故が発生しました。

いまだに事故原因は不明

会社の発表によれば、事故発生直後に停車中の「こまち」を点検したところ、連結器のロックを外す「連結錠てこ」が勝手に作動を繰り返されていました。電気的な異常によるものと考えられています。過去に同様の事象は例がなく、原因も不明のままです。

当初は「原因判明と対策完了まで連結運転を取りやめる方針」とされていました。しかし、いまだに原因はわからぬままです。14日からは電氣的に「連結錠てこ」が動かないよう、固定金具を新たに取

付けて物理的に固定した上で、連結運転が再開されています。

鉄道ないがしろの施策の撤回を

昨年9月にも同じく「はやぶさ」と「こまち」の連結部分が発生して、「対策」が行われたはずでした。それがわずか半年で同型車両で同様の事故が繰り返されたのです。深刻な問題です。運輸安全委員会からも「重大インシデント」と認定されています。

背景には間違いなく、業務融合化や外注化など鉄道業務をないがしろにする施策があります。会社はワンマン化を通して、「社員意識を『人ならではの創造的な仕事』」と「**鉄道業務ではないもの**」へシフトさせる」としています。現場の団結を破壊すること、要員削減・コスト削減を何より優先し、「大事なのは鉄道業務ではなく利益を生み出すこと」とすれば技術継承も破壊され、安全が崩壊するのは当然です。会社がどんなに軽視しようと、鉄道を動かし、安全を守っているのは乗務員や車両検修、駅、保線、電力等の現場で働く労働者です。だからこそ、現場からの団結した声と闘いにこそ、攻撃を打ち破る力があります。動労千葉とともに声をあげよう。